

(第12週)

前回のおさらい(3-3):

- ◆ 銀行システムと日銀当座預金の役割
- ◆ 中央銀行としての日銀の役割
- ◆ マネタリーベースとは
- ◆ 銀行の信用創造と通貨乗数
- ◆ 金融政策の目標と3つの政策手段
 - ・ 基準金利(公定歩合)操作
 - ・ 公開市場操作
 - ・ 法定準備率操作

1

第6章 閉鎖経済における短期のマクロ経済理論

6-1-1① IS曲線の導出

◆ 財市場の均衡式

$$Y = C(Y) + I(i) + G$$

ここで、 $S(Y) = (Y - T) - C(Y)$ だから、

$$I(i) + \bar{G} = S(Y) + \bar{T} \quad [\text{IS曲線}]$$

4

(3-3-4) 金融政策の波及経路と効果

① かつての公定歩合操作に期待された効果

- ◆ 公定歩合(中央銀行貸付の利子)を操作
 - 銀行の短期的な資金調達のコストが変化
 - 銀行の企業への貸出態度や条件が変化
 - 銀行の信用創造機能を調節

- ◆ 銀行の資金調達コストを通じる効果
(コスト効果)

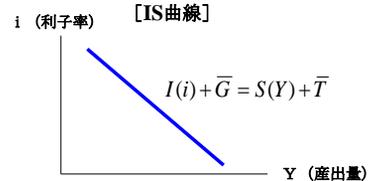
2

IS曲線の形状

◆ IS-LMモデルのグラフ

縦軸に利子率(i), 横軸に産出量(Y)をとる

◆ IS曲線は右下がりとなる



5

3-3-4② アナウンスメント効果

- ◆ 銀行は短期の運用のための資金を、短期的な借り入れで調達しているとは限らない
 - コスト効果への疑問
- ◆ 銀行間で短期資金を貸借するコール市場が発達
 - 日銀借入への依存度が低下
- ◆ ただし、金利政策には日銀の政策スタンスを市場参加者に示し、将来の経済環境の変化を予測させ、銀行行動を変化させる効果(アナウンスメント効果)がある(あった)と考えられている

3

つづき: IS曲線が右下がりとなる理由

- ◆ IS曲線上にあるどのような点(Yとiの組み合わせ)においても、**財市場は均衡している**
- ◆ 均衡状態から、何らかの理由で利子率iが**低下する**と...
 - 投資Iが増加し、財の超過需要が発生
 - 財市場の不均衡を調整するために**所得Yが増加する**(→貯蓄Sの増加)
 - ⇒ **均衡を表すiとYは負の関係をもつ**

<※ 部分均衡[45°線モデル]で確認してみよう>

6

6-1-1② IS曲線の傾きと位置

- ◆ 傾きを決める要因
 - **投資の利子弾力性**
投資の利子弾力性が**上昇**(低下)すると、IS曲線の傾きは**緩やか**(急)になる
 - **限界貯蓄性向**(⇔限界消費性向)
限界貯蓄性向が**上昇**(低下)すると、IS曲線の傾きは**急**(緩やか)になる

7

つづき: LM曲線が右上がりとなる理由

- ◆ LM曲線上にあるどのような点(Yとiの組み合わせ)においても、**貨幣市場は均衡**している
 - ◆ ある均衡状態から、何らかの理由で所得Yが増加
→ $L_1(Y)$ が増加、貨幣の超過需要が発生
→ 貨幣供給は一定なので、不均衡を調整するために利子率が**上昇**(→需要が減少)
⇒ **均衡を表すとYは正の関係をもつ**
- <※ 部分均衡[貨幣の需給分析]で確認してみよう>

10

6-1-1② つづき

- ◆ IS曲線の位置を決める要因
G(政府支出), T(租税)の水準
※ その他: 独立的消費などの外生変数
- **政府支出の拡大(Gの増加)**
→ IS曲線は**右(上)方向**にシフト
- **増税(Tの増加)**
→ IS曲線は**左(下)方向**にシフト

8

6-1-2② LM曲線の傾きと位置

- ◆ 傾きを決める要因
 - **貨幣需要の利子弾力性**
貨幣需要の利子弾力性が**大きくなる**とLM曲線の傾きは**緩やか**になる(逆は逆)
※「流動性のわな」のケースで**水平**
 - **貨幣需要の所得弾力性**
貨幣需要の所得弾力性が**大きくなる**とLM曲線の傾きは**急**になる(逆は逆)

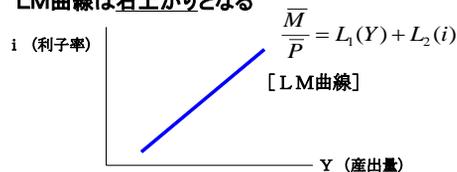
11

6-1-2 ① LM曲線の導出

- ◆ 貨幣市場の均衡式

$$\frac{\bar{M}}{P} = L_1(Y) + L_2(i) \quad [\text{LM曲線}]$$

- ◆ LM曲線は**右上がり**となる



9

6-1-2② つづき

- LM曲線の位置を決める要因

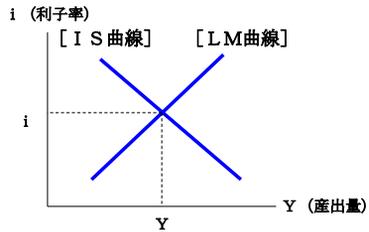
M(名目貨幣供給), P(物価)の水準

- **名目貨幣供給の拡大[金融緩和]**
(Mの増加) → LM曲線は**右(下)方向**にシフト
- **インフレーション(Pの上昇)**
→ LM曲線は**左(上)方向**にシフト

12

6-1-3① 財市場と貨幣市場の同時均衡

◆ IS-LMモデルを用いると、(短期の閉鎖経済において)財市場と貨幣市場が同時に均衡する状態を分析することができる



13

配布資料の練習問題:解説

1 (IS線とLM線から均衡国民所得を求めよう)

$$\begin{aligned} \text{IS 曲線: } Y &= C + I \\ &= (0.6Y + 30) + (10 - 6i) \\ \rightarrow 0.4Y &= -6i + 40 \quad \dots(1) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{LM 曲線: } M/P &= L \\ \rightarrow 760/2 &= 0.04Y + 280 - 3i \\ \rightarrow 0.04Y &= 3i + 100 \quad \dots(2) \end{aligned}$$

(1)(2)を連立させてYを求めると、 $Y = 500$ … (答)

14

= 7月の予定 =

- 第1週(第12週) テキスト第6章(1)
→ <過去問配布>
- 第2週(第13週) 第6章(2)
→ <テスト形式の告知, 解答用紙配布>
- 第3週(第14週) 問題演習
→ 過去問の解説
- 第4週(第15週) 期末テスト実施

15